

# 常松大谷遺跡 つねまつおたにいせき

## & 常松菅田遺跡 つねまつすがたいせき



田下駄や建築部材が  
まとまって見つかった溝



○で見つかりました



### たげた 弥生時代の田下駄が 見つかりました！

実りの秋。遺跡周辺の田んぼではイネが実って、刈り取られるのを待っています。

常松菅田遺跡では、弥生時代中期後葉から後期初頭（約 2,000 年前）の溝からまとまって見つかった建築部材の中に、半分に割れた田下駄が 2 点見つかりました。田下駄は田植えなどの時に、田んぼの中に足が沈み込まないようにするための道具だと考えられています。

田下駄が見つかったことで、この近くでは田んぼがあり、イネを作っていたと考えられます。今も昔も、変わらない風景が広がっていたのでしょうか。

見つかった田下駄は、半分に割れていました。壊れたので捨てたのでしょうか？それとも・・・



# 鳥取西道路の遺跡を掘る！

第 53 号 2013 年 9 月 20 日



鳥取西道路の発掘調査では、昨年度まで調査を行っていた高住平田遺跡と良田平田遺跡で古代の碇が出土しています。

現在、碇といえば石でできた、習字の時に使う長方形の碇を思い浮かべますが、古代の碇とはいったいどのような碇なのでしょう・・・

## 古代の碇のはなし

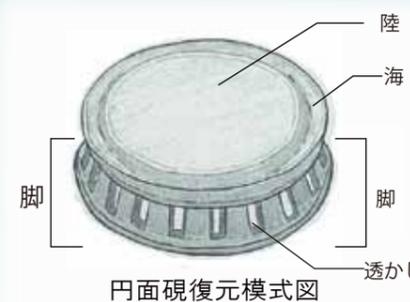


良田平田遺跡で出土した円面碇  
(高さ 5.3cm、脚の径 13.1cm)

碇は飛鳥時代（約 1,400 年前）に中国から直接もしくは、朝鮮半島を経由して日本に伝わったと言われています。現在、私たちが使用している碇は石製で長方形ですが、日本で石製の碇が使用されるのは平安時代中期（約 1,000 年前）以降と考えられています。それ以前に使われていた碇は焼き物だったため、作りやすさから円形のもの（円面碇）、平面形が「風」の字に似ているもの（風字碇）、またごくまれに鳥や羊などの動物の形をした碇（形象碇）などいろいろな形のもので作られました。なお、須恵器の坏や蓋を碇として再利用したもの（転用碇）もありました。

今回紹介する円面碇は写真の良田平田遺跡の他、鳥取県内の 20 カ所以上の遺跡（役所跡や寺院跡など）で出土しています。

円面碇は、墨を擦る「陸」という部分の周りに「海」という墨を溜める溝を巡らせ、土台となる脚をつけます。脚の部分には長方形、円形、三角形などいろいろな種類の透かしを空けたり獣の脚を模倣したものがありました。



高住平田遺跡、良田平田遺跡で出土した古代の円面碇は、長方形の透かしが空いているものです。この時代に主に碇を使用していたのは識字層であった役人や僧侶ですが、碇を使うときに必要のない透かしにまでこだわるとは…碇にも古代の人々のセンスが感じられますね。

# 下坂本清合遺跡 しもさかもとせいごういせき

## 壊れないよう慎重に...

下坂本清合遺跡では、鎌倉時代（約 800 年前）の川の跡から、動物の骨がたくさん見つかりました。土の中で何百年も埋まっていたこれらの骨は、劣化してかなり脆くなっており、無理に持ち上げようとするとボロボロに崩れてしまいます。しかし形を残したまま持ち帰らないとどんな動物の骨なのかなどの詳細な調査ができません。



このように非常に壊れやすい出土品は、地面の土ごと取り上げます。さて、その方法とは？



1 まず、骨の表面に専用の薬剤を染み込ませ補強します。



2 次に、骨を傷つけないよう、周囲の土を掘り下げます。



3 土が崩れないように医療用ギプスを巻いて補強します。



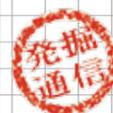
4 最後に、ギプスの下から土を切り離し取り上げます。

失敗すると取り返しのつかない作業です。ただよ作業中、現場にはなんともいえない緊張感が漂います。

(公財) 鳥取県教育文化財団  
調査室

〒680-1133  
鳥取市源太 12 番地

TEL : 0857-51-7553  
FAX : 0857-51-7550  
メールアドレス :  
tottori-kyobun@kyobun.  
sakuratan.com



8 月 31 日土曜日に常松菅田遺跡の現地説明会を開催しました！  
天気を気にしながらの説明会となりましたが、県内外から 162 名もの方々にお越しいただきました（^o^）ありがとうございました！！  
今後も調査の状況はホームページなどでお知らせしていきますのでご期待ください！！

鳥取県教育文化財団 調査室

検索

# 桂見鍋山遺跡

かつらみなべやまいせき

## 桂見鍋山遺跡の調査、開始!!

昨年度に引き続き、桂見鍋山遺跡の調査を開始しました！桂見鍋山遺跡は、先月まで調査していた東桂見遺跡から東側に尾根を一つ隔てた場所にあります。

現在、重機による現代の耕作土（表土）などの取り除きを終えて、人の手による掘り下げを開始しています。まずは調査区の周りに側溝という細い溝を掘り、土層の堆積状況を確認しました。その後、本格的な掘り下げに取り掛かっています。

昨年度調査した西側の調査区では、古墳時代と平安時代の水田跡が見つかっています。また、稲作に関する遺物の田下駄や石包丁なども出土しています。今年度の調査ではどんな遺構・遺物が出土するのでしょうか・・・？



側溝を掘り下げ中！

# 良田中道遺跡

よしだなかみちいせき

## 流路から何が出てきた？



流路の中からたくさん見つかりました。



流路はまだ調査中です。今後もどんな遺物が出てくるのか楽しみです。



トチの実

当時、貴重な食料でもありました。遺跡から出土したものは長い年月によって黒く変色していますが、形や大きさを比べてみると今も昔も変わりません。



### 実はこれ、トチの実なんです。

このトチの実、縄文時代の遺跡からしばしば出土することが知られており、この頃から食べられていたことがわかっています。現在でもトチ餅にして食されています。しかし、このトチの実、食べるためには灰汁抜きが必要で大変手間がかかります。当時の人々は食べるためにはこうした手間を惜しまなかったのですね。悪戦苦闘したことでしょう。いやはや、食への探求心とその努力に感服です。



# 金沢坂津口遺跡 & 松原田中遺跡

かなざわさかつぐちいせき まつばらたなかいせき

## 弥生人もドジョウ掬い!?

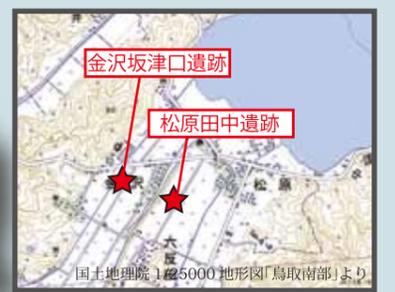


見つかったときの様子（大きさ：横約 80 cm）



形を出すのも緊張の連続!!

壊れやすくとても繊細な遺物なので、取り上げは一苦労(>\_  
当時の緊迫した雰囲気は当財団のfacebookをご覧ください。  
<https://www.facebook.com/cho sasitsu>  
今すぐアクセス!!



実は前号のお知らせを書いているときに大きな発見がありました!!なんと弥生時代の始まり頃（約 2,500 年前）と思われる「手箕」が見つかったのです。

手箕は、小さな川の跡から、とてもきれいな状態で見つかりました。その形はまるで、お隣島根県に伝わる有名な安来節、「ドジョウ掬い」に使うザルのようなのです。細いヒゴ状の材を、縦と横それぞれ素材を変えて規則的に編みこむなど、弥生人の繊細なものづくりの技を今に伝えてくれています。

ドジョウ掬いをしていた弥生人がいたのかも…(^\_^)



現在の手箕（発掘道具）と形もよく似ています。

# 松原田中遺跡 (1区)

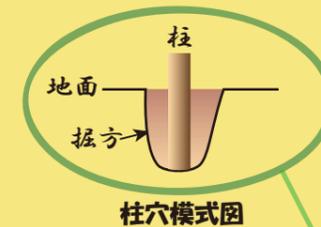
まつばらたなかいせき (1区)

## 掘立柱建物を発見!

調査地の北東部と南部において、古墳時代後期（約 1,450 年前）以降の掘立柱建物が各 1 棟見つかりました。

2 棟とも建物の外周に柱がめぐる側柱建物と呼ばれるもので、建物の向きは西北西—東南東です。しかし、規模は、北東部のものは桁行（長軸方向）2 間以上（4.2m 以上）・梁行（短軸方向）2 間（約 3.5m）、南部のもの【写真】は桁行 3 間（約 6.1m）・梁行 1 間（約 2.8m）、と異なります。

検出したばかりなので、建物の詳細な構造はもちろん、出土遺物や柱材の有無もまだわかりません。今後の調査でそれらを明らかにしていきます。



柱穴模式図



姿を見せた掘立柱建物